

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子石神井台保育園
施設所在地	東京都練馬区石神井台6-8-1
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然「植物」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日当たりのよい屋上園庭の特徴を活かし、「自然」をテーマとして設定する。以前屋上園庭でお米の栽培を試みたが暑さもあり上手く育たず、子ども達からは悔しそうな表情がみられた。この経験から「また何かを育ててみたい」という声が聞かれ、植物をテーマに設定することで子ども達の興味関心を更に深められるのではないかと感じた為。

2. 活動スケジュール

11月前半：問いを考え、子ども達の現状や興味を探り植物を育てることに決まる
11月25日：なにを育てるか話し合う
11月25日～：チューリップを育てるために必要な物を購入する
本棚を使用して環境設定を行う
12月1日：ルーペ等を使用して球根の観察、観察画を描いた後、プランターに植える
子ども達の姿や言葉などをスタッフ同士で共有し、話し合う
12月2日～：ジョウロを使用して継続的に水やりを行う
子ども達の様子の観察を継続する
12月中旬：ドキュメンテーションを通してチューリップを育てる過程を保護者に共有する
12月下旬：散歩先で見つけたどんぐりに興味を示し持ち帰って観察、まとめる
1月6日：どんぐりの木の観察、チェキを使用して撮影
1月8日：どんぐりや葉の観察、考察、まとめる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【室内】

ラックや本棚を使って図鑑・絵本コーナーを設定

(ラック・本棚・収納ボックス・図鑑・絵本)

ハサミやペンなどを使用して表現

(ハサミ・ペン・折り紙・色鉛筆・のり・テープ)

ドキュメンテーション掲示用のパーテーション

【戸外】

チューリップの球根を育てる

(土・プランター・ジョウロ・スコップ)

持ち歩き図鑑を使用して散歩時に観察する

(持ち歩き図鑑・リュック)

チェキで撮影をする。

(チェキ・チェキのフィルム・ファイル)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1問いを検討する：「またなにか育ててみたい」という子ども達から発せられた声から、「なにか育ててみる？」と子ども達に問い、子ども達に状況や興味を探る。

2話し合う：図鑑や本を用いて育てたい植物を子ども達と検討しチューリップを育てることに決定。

3環境作り：チューリップを育てる為の物品を用意したり、本棚の購入、購入した棚に絵本や図鑑を並べ植物に関するコーナーを設定する。

4球根を観察する：チューリップの球根を購入。買ってきた球根の皮を剥がして観察を行い、観察画を描く。観察時にチューリップの球根の裏に毛のようなものが生えていることに気付いて図鑑や本を用いて調べる。インターネットも活用して調べたが分からず、本に「球根には栄養がたっぷり」と記載してあったことから毛もチューリップの栄養なのではないかと子ども達は考察する。

植物に関するコーナーを設定による変化：保育室内に絵本や図鑑のコーナーを設置することで子どもたち気になった事を調べる楽しさに気づき戸外活動で見つけたどんぐりを園に持ち帰り観察を行い図鑑で調べる。種類別に紙にまとめる。

(全て同じ種類だったが、教えるのではなく気付けるよう別日に続く)

5育てる：スコップを使いプランターにチューリップの苗を植え、継続的に水やりを行う

6振り返り：保育者が子どもの様子を観察し、その様子を振り返り、ドキュメンテーションを作成、発信する。ドキュメンテーションを掲示し、保護者に見てもらう

7子ども達の興味関心から問いを検討する：図鑑で調べることに興味を持っていたので、「どんな木にどんぐりがなっているのかみてみない？」と子どもたちに問いかける

8環境設定を行う：どんぐりを拾った公園を散歩先に設定。観察や自分達でチェキを使用してどんぐりを撮影する。チェキで撮った写真は、当日子どもたちと図鑑で見比べたりする。

9環境設定による変化を観察：拾ったどんぐりの観察を進んで行き、話し合ながら考察する。

10.振り返り：保育者が子どもの様子を観察し、その様子を振り返り、ドキュメンテーションを作成、発信する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動開始時は「育てる」には興味があるが、身の回りの植物には興味を持たない子が多かった。活動を進めていく中で、気になった事を新しい本や図鑑で調べる楽しさや、調べたものを表現する楽しさを味わっていたように感じる。気になる→調べる→考える→分かるができたことで、身の回りの植物へも興味が広がっていた。公園に落ちているどんぐりを見て「なんの種類のだんぐりだろう？」と気になり、本で調べてみる、気づいたことや分かったことを紙にまとめるなど活動の広がりも見られた。保育者は子ども達のつぶやきから活動の展開を促すような声かけを意識的に行うことで、子ども達は興味を持ち探究が深まったように感じる。継続的な探究活動を行うことで子ども達の興味関心や子ども同士、子どもと保育者の関係も更に深めることが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動開始当初は、子ども達は興味に温度差がある、という状況になっていたがすくわくプログラムの活道を行っていく中で、保育者が子ども達のつぶやきに更に敏感になったことで大人と子どもが主体的に活動に参加することができたように感じる。子ども達の様子から今回探究活動を行ったことで、気になることを調べる、知る楽しさを味わえたのではないかと思う。気になった事を自ら調べていく楽しさに気付くことが出来てよかった。大人と子どもが主体的に活動に参加することで、多くの会話が生まれて更なる信頼関係の構築にも繋がったのではないか。また、スタッフ間でも活動についての会話が増えて、子ども理解へと繋がったり、スタッフ同士の信頼関係の構築にもなった。保育者が子どもをつぶやきをキャッチできることの大切さを改めて感じる事が出来た。

今後は4歳児がすくわくプログラムを行っている5歳児の活動に興味を持っていたので、4歳児への引継ぎ会などを設定していきたい。